



南小だより

鶴岡市立櫛引南小学校
発行日 令和4年6月28日

地域と共にある学校づくりのために (第1回学校評議員会の報告)

今年度から、地域と共にある学校づくりをより推進するために、「学校評議員会」という組織を立ち上げさせていただきました。13名の委員さん(区長さん、同窓会長さん、民生児童委員・見守り隊・りんご学習を守る会の代表の方、書写指導者の方、PTA会長さんと副会長さん)からそれぞれのお立場での意見を聞かせていただき、学校運営にそのご意見や想いなどを反映させることを目的としています。(年2回の開催です)

当日は、授業を参観していただき、その後、話し合いを行いました。学校運営や学校の現状の説明をした後に、各委員さんから様々なお話を聞かせていただきました。以下、その時に委員さんから出していただいた主な内容です。

- ◇元気で明るい子どもが多い。上級生が下級生の面倒をよく見ている。
- ◇元気よくあいさつのできる子どもが多い。下校後、地域で仲良く遊ぶ姿も見られる。
- ◇人数の少なさもあるだろうが、学年を超えて仲良くできている。男女の仲もよく、上級生の面倒見の良いところも、この地区の良さの一つである。
- ◇素直で表情の良い子どもが多い。助け合える子ども達である。(この地区の伝統的な良さ)
- ◇多くの大人がかかわって、たくさんの目とたくさんの手で育てられている。
- ◇果樹や米農家が多く、家の手伝いをしている子ども達の姿をよく見る。大人の働く姿を直に見ることができるのは、子どもにとっていい影響になっていると思われる。
- ◇自転車の乗り方が、以前に比べて良くなっているように感じる。
- ◇りんご学習に一生懸命取り組んでいる。あいさつも進んでしてくれ、うれしく感じている。
- ◇りんご学習は、南小や地域の特色ある活動で、他の地域に誇れる活動である。
- ◇地域一丸となってサポートしてもらっていることをありがたく感じる。
- ◆子どもの自己防衛力を高めるような研修なども必用だと感じている。
- ◆おやつを食べっぱなし、遊んだ道具を出しっぱなしということもあり、学校でできていることが家庭でできていない様子が見られる。
- ◆どこの家の子かわからない、というお年寄りが増えている。お年寄りと子どもが交流できる場が必要ではないか。わからないから子どもを叱りづらいというところもある。
- ◆マスクの着用で表情がわかりづらく、相手の感情も読みづらい。
- ◆コロナの影響で、地区の行事や活動なども中止が続き、地区内でのかわりが薄まり、コミュニケーションが以前に比べて取りづらくなっている。
- ◆地区で、見守り隊の方などに感謝する会を行うことも意義があると思う。
- ◆りんご学習を守る会が人手不足である(現在5名)。守る会の会員を、学校の枠を超えて地域から広く募りたい。りんご学習がコミュニティのコミュニケーションツールのようになるといい。
- ◆先生方の多忙解消のため、家庭学習の丸付けなどを家庭に任せてもいいのでは。そうすることで子どもの今やっていることが見えるし、親子のコミュニケーションにもなると思う。



子ども達を温かく包んでくださっている、この地域の懐の広さを感じる話し合いでした。子ども達、学校、地域の良さや課題を共有する貴重な場ともなりました。地域と共にある学校づくりを、これから更に進めて参りたいと思いますので、引き続きのご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校長 岡部 貞二